鈍走記

竹内浩三

青空文庫

生まれてきたから、死ぬまで生きてやるのだ。
ただそれだけだ。

＊

日本語は正確に発音しよう。白ければシロイと。

＊

ピリオド、カンマ、クエッションマーク。
でも、妥協はいやだ。

＊

小さな銅像が、蝶々とあそんでいる。彼は、この漁業町の先覚者であった。

＊

四角形、六角形。
そのていたらくをみよ。

＊

バクダンを持って歩いていた。
生活を分数にしていた。

＊

恥をかいて、その上塗りまでしたら、輝きだした。

＊

おれは、機関車の不器用なバク進ぶりが好きだ。

＊

もし、軍人がゴウマンでなかったら、自殺する。

＊

目から鼻へ、知恵がぬけていた。

＊

みんながみんな勝つことをのぞんだので、負けることが余りに余った。それをことごとく拾い集めた奴がいて、ツウ・テン・ジャックの計算のように、プラス・マイナスが逆になった。

＊

××は、×の豪華版である。

＊

××しなくても、××はできる。

＊

哲学は、論理の無用であることの証明に役立つ。

＊

女はバカな奴で、自分と同じ程度の男しか理解できない。しようとしない。

＊

今は、詩人の出るマクではない。ただし、マスク・ドラマなら、その限りにあらず。

＊

「私の純情をもてあそばれたのです」女が言うと、もっともらしく聞こえるが、男が言うと、フヌケダマにみえる。

＊

注釈をしながら生きていたら、注釈すること自身が生活になった。小説家。

＊

批評家に。批評するヒマがあるなら創作してくれ。

＊

子供は、注釈なしで憎い者を憎み、したいことをする。だから、好きだ。

＊

おれはずるい男なので、だれからもずるい男と言われぬよう極力気をくばった。

＊

おれは、人間という宿命みたいなものをかついで鈍走する。すでに、スタアトはきられた。

＊

どちらかが計算をはじめたら、恋愛はおしまいである。計算ぬきで人を愛することのできない奴は、生きる資格がない。

＊

いみじくもこの世に生まれたれば、われいみじくも生きん。生あるかぎり、ひたぶるに鈍走せん。にぶはしりせん。

青空文庫情報

底本：「竹内浩三全作品集　日本が見えない　全1巻」藤原書店
2001（平成13）年11月30日初版第1刷発行
2002（平成14）年8月30日初版第5刷発行
入力：坂本真一
校正：雪森
2014年11月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

鈍走記

竹内浩三

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/